潮騒

第22号
平成18年
8月1日

財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四-五
海事センタービル
電　話　〇三-三二三四-〇六六二
ＦＡＸ　〇三-三二三四-〇六八二

戦没・殉職船員追悼式

遺族関係者約七百人

全員起立して国歌斉唱

第三十六回戦没・殉職船員追悼式は、五月十二日神奈川県横須賀市観音崎公園にある慰霊碑前において、遺族海事関係者など約七百人が参列し、好天の中で執り行われた。

前日まで降り続いた雨も当日には止み、関係者をほっとさせる中での追悼式になった。

式典は、午前十一時に始まり、海上自衛隊横須賀音楽隊による奏楽が流れる中、国歌斉唱、一分間の黙祷が行われ、引き続き相浦会長の式辞、内閣総理大臣追悼の辞の後、来賓及びご遺族等参列者全員による白菊を献花し、観世一門による能楽「海霊」が奉納され式典は終了した。

式辞の中で相浦会長は、「今年の奉安者はアスベストによる労働災害殉職船員を含む二十一人の御霊を奉安することになり、この碑に奉安されている御霊は戦没船員六万六百八人、殉職船員二千八百五十五人となり、安らかに眠っています。今日わが国が平和と繁栄を享受できているのは、戦没・殉職船員の尊い犠牲の上にあることを決して忘れてはなりません。

私達は、この碑を建立した原点に立ち返り、これからも御霊の慰霊、顕彰と海洋永遠の平和と安全な航海を祈念していくことを、皆様と誓いをあらたにしたい」と述べた。

参列者全員による献花

また、内閣総理大臣追悼の辞を、「今日わが国の平和と繁栄は、多くの尊い犠牲の上に築かれている。祖国の未来を信じて蒼海深く散った船員の方がたの御霊の前で、末永い平和と海上交通安全の誓いを新たにし、ご遺族皆様の深い悲しみに思いを致すとともに、戦没・殉職船員の方がたの安らかな眠りを心からお祈りします」と国土交通省官房小野芳清審議官が代読した。

会長献花、堀田明道遺族会会長献花、各界代表献花に引き続き、参列した全員献花となり、ご高齢の方がたも付き添いの方に支えられながら、一本の白菊を抱きしめるかのように、思いをこめて静かに両手を合わせていた。

献花の後は観世一門による能楽「海霊」の奉納が行われ、厳かに舞い詠う能に初めての参列者は、心が休まるようです、と語る。

式典終了後は、式典会場からマイクロバスが巡回され、京急ホテルにてご遺族はじめ関係者多数が参加し、穏やかに歓談のひと時を過ごしていた。

今年はご高齢者用の席も用意され、遺族参列者に、氏名・船名・所属会社を記載した名札をつけていただいた事から、懇親会場ではお互いに会話がスムースに図られ、来年もよろしく願いたいとのお話を頂いた。

「雨が止んで、天気が良くて良かったね」と話していただく言葉に、感謝の気持ちが心から出る追悼式になった。

追悼式 参列の船員遺族

五月十二日の追悼式に参加された方がたは、毎年参加される人、初めて参加される人もおります。今回は三人の感想などをご紹介します。

大熊道郎さんの遺族　五男の暁（さとし）さん六男の坦（ひろし）さん

上 坦さん、下 暁さん

愛知県岡崎から深夜、自家用車を交代で運転して駆けつけた。

道郎さんは十九歳で、山下汽船「高津丸」にて第四次レイテ輸送作戦に参加、オルモック湾よりマニラ向け帰途、艦載機の猛爆を受け昭和一九年十一月十日、船員百四人とともに戦没した。

「兄は小学校の時に一度だけ、名古屋城の陶器のおもちゃを持って帰って来た」思いではそれだけという。

加賀城久子さん

夫は日本郵船「りま丸」の操機手として乗船中、昭和一九年二月八日雷撃により同僚五十六人とともに戦没。加賀城さんは五月の慰霊式典には毎年、香川からやってくる。

戦後は、夫の寄港した港を訪ね歩いたとのこと。元気な秘訣は「毎年、金毘羅さんに登ること」だという。

笠原倫子（のりこ）さん

夫の笠原昭雄さんは、二年まえに死去し、アスベストによる船員保険職務上認定第一号となった。船員保険職務上認定は新聞紙上にも大きく取り上げられ、以後海運界におけるアスベスト被害の救済対策が進展するきっかけとなった。倫子さんは「奉安されたのを機会に、初めて式典に参加した」と語る。「夫は何処に奉安されているのですか」と訊かれ、「碑文石の下に奉安されていますよ」と教えられ納得していた。

初めての追悼式

東京都港区　曽我部　英隆さん

拝啓

新緑の美しい時候となりましたが、貴財団ますますご清栄のことと存じ上げます。

白菊を手渡す東京海洋大学の学生
左から上田貴裕君、宮田将史君、木口文夫君

さて、この度は戦没殉職船員追悼式にはじめて参列させていただきましたが、如何にも海の男達の誠実さとスマートさを感じさせる見事な運営で感銘いたしました。

財団職員の皆様、海上自衛隊および海洋少年団ほかの皆様の誠意溢れるボランティア活動には感激した次第です。機会がありましたらなにとぞ宜しく謝意をお伝えいただければ幸甚です。

亡父は、靖國神社にもお祀りいただき、有難いことだと存じます。しかし、私は地域の皆さんのご好意に包まれ、恵まれた自然環境の中、鳶やかもめがのどかに舞い、海の藍と空の青の接する彼方に船の往来する、この観音崎の地こそ亡父と海の仲間の皆さんの憩いの場であると信じています。

参列しながら、遥かに好物の紫煙を燻らす亡父の横顔を見る思いでした。海の男として、強い職業倫理観に立って、黙々と危険な職務を遂行して、殉職した亡父に誠にふさわしい場所と痛感しました。来年もまた是非追悼式に参列させていただければと存じます。

終わりに重ねて関係の皆様方に深く感謝申し上げ、ますますのご発展を祈る次第です。　敬具

殉職船員の奉安

今年は二十一人

本年は、船員最初のアスベスト職務上認定者を含め、二十一人の御霊を奉安することになった。業種別の内訳は、外航二人、内航十二人、水産四人、港湾など三人となっている。

大島清太　越商事(株)
片平利信　(株)事代丸
笠原昭雄　日本郵船(株)
山根春樹　船主・山根義則
雄島健介　(有)伸和汽船
家田欽示　船主・本人
山邉利武　船主・中川利彦
吉田　茂　(有)柏木水産
佐藤源一　南洋海運(株)
沖田喜久治　南洋海運(株)
上田定雄　南洋海運(株)
古川金次郎　南洋海運(株)
梁井義克　南洋海運(株)
中野秀利　興洋海運(株)
尾形交功　船主・尾形賢治
杉森勝仁　(有)佐賀漁業
岩本泰良　住若海運(株)
池田順洋　鹿児島荷役海陸運輸(株)
臼井正道　(有)力海運
來海　薫　(有)力海運
近藤　清　大阪湾水先区水先人会

2006年３月31日現在

戦没・殉職船員業種別奉安者数

戦没船員		60,608人
殉職船員		
	外航船社	915人
	内航船社	863人
	旅客船社	66人
	水産会社	977人
	港湾等	34人
合　計		63,463人

碑文石のことば

安らかにねむれ　わが友よ
波静かなれ　とこしえに

戦没船員の碑お参り

全国海員学校同窓会

平成十八年四月八日全国海員学校同窓会の方がたが戦没船員の碑に、お参りと周辺を散策するという話が顕彰会に入った。当同窓会が企画されたことに敬意と感謝の気持ちで当日碑の前に赴いた。暫く待機していたところ、四名の方が主流に先立ち到着。待つこと一時間半、昼食の時間も過ぎ、メンバーの一人が作ってくれたおにぎりをご馳走になった。待ち時間の間に、高橋達治さん（七十九歳千葉県市川市）、戦没船員の碑に初めて来たというので色々お話を伺った。六十年まえの戦争当時の話である。

追悼式に参列する高橋達治さん（中央）

「当時の海員養成所の生徒が徴用船に次々と乗船し、十五歳前後で戦死していった。そのときの教師をしていた人達はさぞかし想像を絶する辛い思いをしていたと思う。自分と同年代の生徒が戦死するのが本当に痛ましかった」と語り、つい最近『男たちの大和』という映画を見て感動の余り、涙が止まらなかったという。

高橋さんは昭和二十三年から昭和六十二年まで海員学校の先生をされており、館山海員学校（現独立行政法人海技教育機構国立館山海上技術学校）の校長を最後に退職されたという。海員学校五十年史の編集に携わり、その一部のコピーを持ち合わせ、貴重な資料としていただいた。

お昼を食べ終わるやいなや、黒い雲が空を覆い小雨がぽつぽつとやって来た。やむなく本隊同窓生の方がたと会わずに戦没船員の碑前を後にした。

後日、当同窓会の井出孝会長に連絡したら、浦賀駅十一時集合で全員が揃うであろう十一時半までお待ちになったとのことである。その後昼食をとり、戦没船員の碑には十九人が拝礼されたという。

ご一緒した方がたは、松見隼さん（三十三歳東京都墨田区）、原鉄男さん（七十一歳東京都）藤丸徹さん（五十六歳全日本海員組合）高橋達治さん（七十九歳千葉県市川市）。藤丸さん手作りのおにぎりはおいしかったです。

（齋藤）

平和の海を希求

戦時徴用船遭難の記録画展

名古屋市民ギャラリー矢田

戦時徴用船遭難の記録画展は、平成十八年一月二十四日から二十九日まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催され、六日間で延べ一〇〇〇人が来場した。

熱心にビデオを見入る入場者

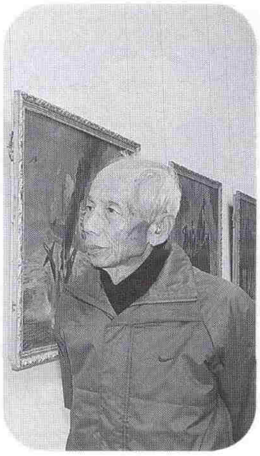
戦没船員の遺族、生還船員、元兵士の方がたは、当時を想い浮かべるかの様に、会場に展示された遺作品三十七点に見入っていた。

名古屋での開催は、昭和五十八年に開催されて以降二十二年ぶりである。この記録画展はこれまで全国主要都市で開催されてきたが、その目的は、世界戦史に例を見ない海洋大作戦といわれた太平洋戦争で、軍人に勝るとも劣らない活躍の中で、犠牲となられた戦没船員の功績を広く国民に伝え、二度と戦争のない平和な海を実現することにある。

さらにもう一つは、ご遺族や戦没船員と生死を共にしたOB船員への慰霊事業等の周知である。

昭和五十六年発足間もない顕彰会では、この記録画展を遺族はもとより、広く国民にご高覧頂くことが戦没船員の顕彰につながると考え、昭和五十七年第一回を東京三越本店で始めた。今回で三十一回目となった。会場に訪れた皆さんのお話しを次にご紹介します。

飯塚　巳四喜さん（七十七才）　名古屋市



大阪商船帝立丸に機関部で乗船、昭和二十年七月二十八日十八時三十五分西舞鶴を出港後三十分で触雷、その後二十七分後擱座した。艏の手すりに捉っていたが気を失ってしまい、気がついたら舞鶴の病院だった。このような催しを行って後世に伝えてほしい。二度とあってはならない戦争である。この催しに参加でき感謝している。今後も継続して実施して頂きたい。

加藤　昭宣さん（大学生）　京都市

伊藤事務局員（左）から説明を受ける加藤さん（右）

当会をネットで知り、京都からやってきた。祖父が（船長）乗船していた船と同じ船名だった（二代目音羽山丸）初代の音羽山丸が悲しい最期を遂げたと本で読み、詳しく知りたくて来た。

平野　勉さん（七十七才）　亀岡市

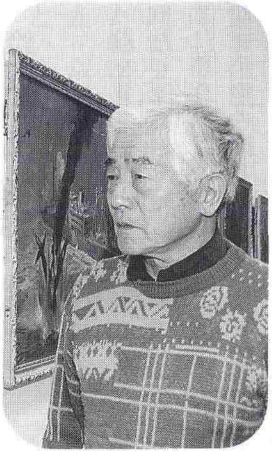
京都から朝一番の新幹線で来た。孫がホームページから探してくれた。毎年五月の横須賀観音崎の追悼式に参加している。和歌山から出港し、大連、上海、香港、と輸送に従事していた。B—29の空爆を受けながら台湾に入港しようとしたが、沈没船で入港できなかった。船体修理のため大連にドックしたが終戦となった。船はソ連のウラジオストックに持っていかれた。長平丸、大連汽船所属（三九九六トン）、日本人乗組員四人、海兵五人ほど、中国人が二十人位乗っていたと思う。大連では二年ほど抑留生活を送った。昭和二十二年三月に佐世保に帰国。宗谷丸（元南極観測船）が送還船であった。妻は十五年前に死亡、子供三人で孫が四人。当時の戦友が六人おり、そのうち二人とはいつも連絡しあっている。

稲村　美穂さん（高校三年生）
見波　里奈さん（高校三年生）

見る目が真剣な女子高生

チラシを見て来ました。戦争で亡くなった船員さんの数など知らなかった。絵を見てものすごく悲惨な思いがした。戦争は体験していないが、やってはいけない。船員さんは大変です、乗船している人の命を預かっているのですから。

浅井　時芳さん（八十才）
名古屋市　元海軍軍人



「自分が乗っていた便乗船の船名を教えてほしい」と相談コーナーに。

（調査したところ、亜米利加丸にて便乗し、昭和十九年三月一日サイパンにて下船、その後本船は横須賀向け航行中三月六日硫黄島南南東三百二十キロ付近で被雷沈没している。）

浅井さんは、駆逐艦「秋風」に乗船予定だった。「自分は運がよかった。今日は船名と様子がわかった。かわいそうに仲間はもういない……」と涙を流し話していた。

記録画展の感想

会場に設置された感想文投入のボックスには、多くの文が寄せられました。その中から数通ご紹介します。

泉　満さん
名古屋市

新聞の紹介記事で「戦時徴用船遭難の記録画展」を知り、問際に拝観でき、嬉しく思いました。大久保一郎画伯の画は、力強くダイナミックで迫力があり、遭難の有様が生々しく迫って感動しました。戦後六十年、敗戦の一～二年前から米軍の攻撃に、本土の空襲と同様多くの船舶が沈没し、六万以上の船員が死亡していた事に、この記録画は改めて訴え、戦争の無残さを心に刻まされました。多くの犠牲者に想いを馳せ、二度と戦争への道を歩まないよう一枚一枚の絵に誓いたいと思いました。安らかにお眠り下さい。合掌

浅井　錠志さん
戦後生まれ　知多市

父の戦争帰りで生まれました。軍人でした。生き残った意味を後世に伝えることを私に考えさせました。特に戦後六十年「戦争」をしてはいけない、参加してはいけない事が、分らなくなっている様な気がする。本展示会で「国」「軍」でない方々の戦争を知ることができました。このような催しを身近なところで開くことができたらと思います。このような記録をぜひ地方にも貸し出して頂けたらと思います。大変想い深くするものがありました。有難うございました。

角田　博さん（八十二才）
名古屋市

あの戦争は本当にむごい。二度と起こしてはならない。

熊谷　一郎さん
春日井市

貴重な記録「戦時徴用船遭難の記録画展」に深い感銘と感動は旧帝国軍指導者に対する計り知れない怒りを感じます。決して二度と同じ過ちを犯してはならないと思います。

森　孝信さん
名古屋市

本画展（大久保画伯）は一度拝見したいと思っていたものです。拝見して当時の悲しい船の数々、心から残念に思います。船による輸送の大切さ重要性について、当時の軍部、現在の政府も判っていない。ビデオのとおり、船なくして日本は成り立たない。経済性だけの日本海運、日本全体の今後は少子化と共に歴史を繰り返す心配のみです。私も船乗りでしたが、平和な海で誠に有難いことでした。

時代も変わり船も変わり、日本人も日本もカネカネとなり……。物資輸送について地味にアピールして下さい。クルーズ人気も海を知るツールですが、海運その他水産漁業に本当の理解が必要です。今後もこの画展を広く開催して下さい。海洋永遠の平和をお祈りします。心にしみる催しでした。良かったです。

鈴木　秀作君　名古屋市大和小六年

絵を見ていると、多くの人がなくなったり漂流しているからとてもざんこくに思う。戦争はしてはいけないのに、なぜか他の国と日本は戦争してしまうから、自分たちで止めたいけど、国はかってに決めてしまうから、自分たちでは止めようとしても止められないと思った。

右　鈴木君、左　桑くん

桑　健太さん　高山市南小五年

絵を見ているとその場所にいる様な気がして、とても大変な気がする。

戦争に出た事ないけど、おじいちゃんが出たのでたくさん戦争の話を聞かされた。どれだけ大変だったかなんとなくわかる。人がたくさんなくなったから、もう人は死んでほしくない、戦争はやってほしくない。

岡田　弘さん　名古屋市

絵を拝見しているうちに思わず落涙してしまいました。従兄弟の一人が戦争中太平洋で亡くなっております。

林　小夜子さん　愛知県海部郡

小さかったし、幸いにも戦争の被害には直接遭ってなかった為、実情は余り知らなかったが、同級生には父親を亡くした方も多かった。若くしてバンザイと叫んで亡くなった人を思うと心が痛む。なぜあのように突き進んだのか、ただただ残念。二度と悲しい想いをさせてはならないし、当時の人々は本当に強かった。せめて自決をなんとか止めたいと思った。

◆　◆　◆

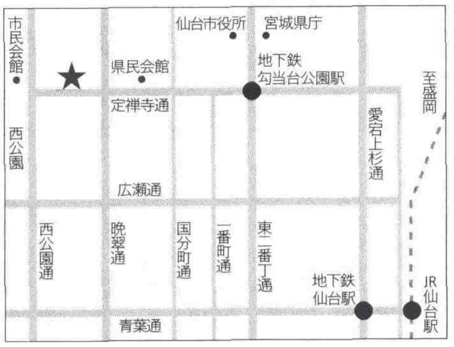
終日、「大日本帝国のアキレス腱」（太平洋・シーレーン）のビデオを放映しました。

九月仙台で開催
戦時徴用船遭難の記録画展

今年の記録画展は九月八日(金)〜十三日(水)『せんだいメディアテーク』（仙台市青葉区）で開催します。

せんだいメディアテーク　★
〒980-0821
仙台市青葉区春日町２―１
地下鉄：仙台駅から泉中央行きで３分、勾当台公園駅下車「公園２」出口から徒歩５分。
バス：ＪＲ仙台駅前から「定禅寺通経由交通局大学病院」行きで約10分メディアテーク前下車。
タクシー：ＪＲ仙台駅から約7分。
車：東北自動車道仙台宮城ＩＣから約10分。

開催会場案内図



開催の趣旨

わが国の海運・水産界は、さきの大戦において六万余人に及ぶ尊い船員の生命と二千五百隻八百四十万総トンを超える船舶を失うという大きな犠牲を払ったが、その実相を伝える資料はほとんど残されていない。

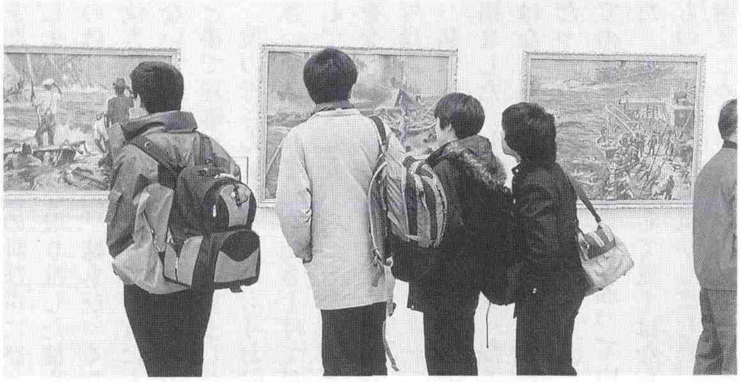
昭和五十七年春、株式会社商船三井の本社倉庫から大阪商船（現商船三井）の嘱託画家　故大久保一郎氏が戦時中に描いた戦時徴用船遭難の記録画三十七点が見つかり、同社は日本有数の絵画修復家　黒江光彦氏に依頼して、これらの絵を完全修復した。

私達は、戦没された船員の労苦をしのび、その霊を慰めるとともに世界の海の永遠の平和を願い、同社のご協力を得て、全国各地に赴き絵画展を公開している。

今日ではこの催しが、ご遺族や関係者に当会の慰霊・追悼事業を周知する手立てにもなっている。

戦時徴用船遭難の絵を描いたいきさつ

大久保氏自身が昭和四十五年発行〝船の雑誌〟創刊号に『大東亜戦争がはじまって私はもう仕事もなくなり職を失うかと思っていたのですが、岡田社長がつぎつぎと戦争でやられていく会社の船の姿を記録にとどめておきたいと考えたので、その絵をかく仕事がつづけられることになりました。陸軍や海軍の御用船になった社船が敵に撃沈されますと、その生き残りの船員から様子をきいて忠実に絵にかいたわけです』と書き残している。



興味深く見入る高校生

投稿

名古屋絵画展の受付に「遺族ではないのですが」と言ってみえたのは、一宮市在住の貝谷アキ子さん。貝谷さんは、平成十年五月末頃、義妹によって顕彰会を知り、かつて近所に住んでいた岡田潔さんについて問い合わせをした。以来、毎年追悼式に参列しているという。

それにより、岡田さんが乗船していた船等最期の様子はわかった。しかし「戦死の知らせは間違いで、いつか帰ってくるのではないかという思いは打ち消された。せめて、空襲で焼けてしまった写真でも残っていたら」と涙ながらに語られた。

絵画展終了後、岡田さんの母校神戸高等商船学校（現神戸大学）に、卒業アルバムがないか、問い合わせをしたが残念ながらやはり戦災で消失してしまっていた。

貝谷さんに岡田さんの思い出を寄せて頂いた。

（田中）

恋人という人

最後の様子　とても悲しい

一宮市　貝谷　アキ子

前年、昭和十八年の潔さんの航海は神戸高等商船学校の卒業航海でした。平和の時代ならあの美しい帆船、日本丸とか海王丸で世界一周の航海をするはずでした。時は戦争の真っ直中。あの時代はそんな優雅な航海ではなかったようでした。それでもシンガポールまでは楽しい航海をしました。六月に帰った時、珍しく熱田祭りも行われ、楽しい土産話も沢山携えて来ました。夕涼みの縁台は彼を取り巻く若者たちでいっぱいでした。特に私たち女の子は競って彼の関心をひこうとしました。あの一夏は私の思い出の中で一番輝いていた時でした。マニラ湾の夕日とか、ジャワの動物園の話とか、美しいシンガポールの話、マラッカ海峡から向こうは危なくて行けないとか、早く戦争が終わって、インド洋を渡って、スエズ運河を通ってマルセーユからティームス河を遡ってロンドンへ行きたい。と夢を語ってくれました。

けれども翌年六月に彼が帰った時はまるで様子が変わっていました。勿論戦況はますます厳しくなり空襲が身近に迫ってきているという事も、暗くのし掛かっていました。明るい話題は何一つありませんでした。潔さんは、彼の母さんがぼやくほどお酒飲みになっていました。私は誰もいない時、たまりかねて「なぜそんなにお酒を飲むの。そんなにお酒を飲んでいて戦争が出来るの」と意地悪な事を無神経になじって言ってしまいました。彼は悲しそうな顔をして「アキちゃんは、本当の戦争がどんなものか知らないから、そんなことがいえるんだ」と言って帰還する前に起きた恐ろしい体験を話してくれました。それはそれは、今思い出してもぞっとする程恐ろしい話でした。絶対他言してはならないと箝口令が敷かれていた軍事機密のようなことでした。（その当時、日本軍が、戦争が不利になっていることを印象づける話を人にしてはならないと言われて居ました）

自分の乗り組んでいた船がアメリカの潜水艦に襲撃されて沈没するまでと、海を何日も漂流して助かるまでの一部始終を聞かせてくれました。私は身をがたがた震わせて聞きました。今思い出して書き記すことの出来ない程恐ろしい体験でした。話し終わった後、私は「もしまた船に乗れと言われたら、また船に乗るの」と聞いてしまったのでした。彼は遠い空を見てあの時亡くなった人たちの事を想い出すように「勿論、行かなければならない。あなた達の居るこの国を守るのだ。君たちを見殺しにするわけにはいかないから」きっぱり言いました。私は男の人の大変さを身にしみて感じました。けれどもそれがあくまで建前だったことを後の事が起きてから思いました。

私はこんな事のあった後、彼に再び乗船命令が出ませんようにと祈りました。そして、密かに今まで戦勝祈願をしていた神様に「どうか彼の乗船命令が出る前に日本の国から船が一隻も無くなりますように」と、神様にも聞き入れて貰えないようなお願いを心密かにしていました。

母は、通し庭の向こうの玄関先に乳母車をおいて、その中で一歳を少しすぎた妹を遊ばせながら夕食の支度をしていました。それを会釈をしながら抱

き上げて連れていく潔さんの姿を見ていました。「また連れていく」と苦笑していました。

「夕ご飯だから、はーちゃんをカネマタさんからもらっておいで」私は「潔さんがまた、連れて行ってしまったの」といいながら妹をもらい受けに行きました。

彼は妹と楽しそうに遊んでいました。何時もなら彼とも彼の母さんとも二言三言、言葉を交わして帰るのですが、その日は少し様子が違っていました。

潔さんが突然「母さん、お嫁さんをもらってくれ！」と叫んだのでした。予期しなかった彼の叫び声にびっくりしました。そんな取り乱した彼を見たのは初めてでした。妹もびっくりして泣き出しました。自分でどうにもならないジレンマを叫びで表現したのではと後で理解することが出来ました。

彼の母さんは「今日はもうお帰りなさい」と言って妹を抱き上げて私に渡してくれました。いつもなら彼と会話を交わして帰るのにとてもそんな状態ではありませんでした。

私は妹を受け取ると慌てて家の外に出ました。しかし、すぐ家へ帰る気にはなりませんでした。「いまのはなんだったのだろう」と思いました。今までの潔さんとはまるで違っていました。胸がどきどきして見てはならないものを見たような気がしました。妹を抱きしめながら、少し気を静めて家へ帰りました。とっさに今の出来事は誰にも話してはならないことだと思いました。勿論母にも。

その夜は眠れなかったと思います。九月は半ば過ぎていたと記憶しています。

確かその翌日から彼の姿は見なくなりました。後日、彼の母さんは潔さんが長崎に向けて旅立ったと言いました。

潔さんの兄は何年も前から満州へ出征し、弟は前年予科練に入隊し、母さんはたった一人で、ますます空襲の激しくなった家での暮らしが始まったのでした。そして翌年三月十二日、私の家も一緒に焼けてしまいました。その一週間後、三月十九日、焼け跡整理をしていた私に母さんが、潔さんの戦死を告げに来て、その夜空襲で亡くなってしまいました。母さんは私に何かを話そうとすることがあったような気がします。私も母さんに何か言いたいことがあったような気がしましたが、まさかその夜亡くなるとは思いもしませんでした。何しろ、まだくすぶり続ける焼け跡では一言も言葉は出ませんでした。私の十八の時でした。

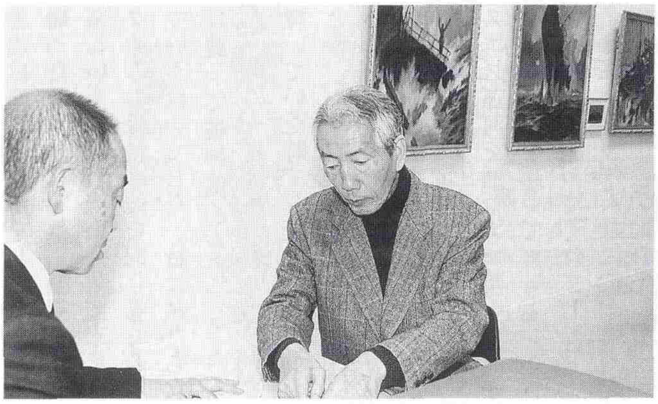
戦争が終わって、私の環境が総て変わりました。そして私は冷静に考える時がやってきました。理性で考える時は、彼を忘れるべきだと思いました。私にもいろいろ選択肢が現れました。けれども私が決断に迫られる時、必ず彼が現れて進路を妨げるのでした。

今から考えると私は最も小心で最も大胆な選択をしたように思います。それに未だに、彼を恋人と明確に言えるかどうか戸惑ってもいます。

兄　熊田　勝　を偲ぶ

名古屋市　熊田　高幸

私の兄熊田勝は、昭和十九年十月十八日にフィリピン・パブヤン群島付近で、当時船舶機関員として乗船していた大阪商船の船が沈没させられて死亡（十五歳）した、と漠然とした事実で五十八年過ごして来た。


当時の資料を見て納得、右　熊田さん

十九年十月と言えば、私は当時小学校三年生で、犬山城付近のお寺と旅館での集団疎開で集団生活にうろうろしていた事を思い出す。又、八十を越した姉・兄達も、ただ通知された死亡日付を知っていただけで、兄、勝が乗っていた船、その船を見たわけもなく、その大きさも何も知らない、亡き父も何も知ることは出来なかったのか父からも聞く事はなかった。

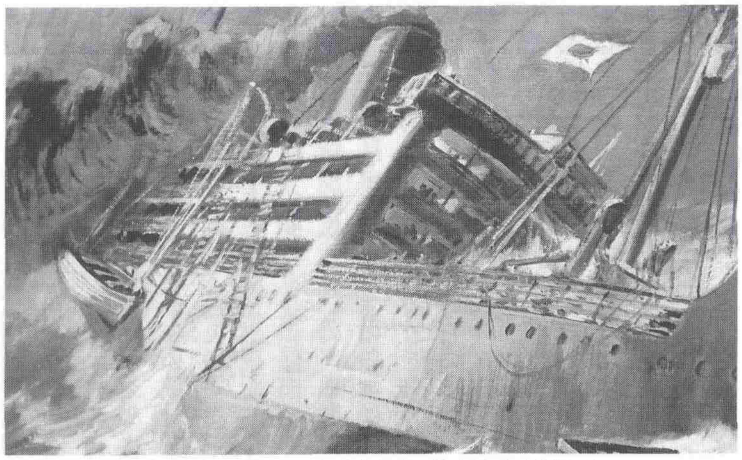
しかし、平成十五年十二月付けの中日新聞社の新刊紹介で（ある個人発行による「商船が語る太平洋戦争・商船三井戦時船史」）を知った。そこには、兄達もこの五十八年間知る事が出来なかったが、兄、勝の乗船していた商船は、昭和初期に画期的な大型客船（瑞穂丸・八千五百トン）であったこと、その写真を初めて見、その確たる姿も初めて確認出来た。又、この瑞穂丸が撃沈された日は、昭和十九年九月二十一日でこの記録によると、本船沈没必至と確認した一等運転士の命を受けた甲板員は、真新しい国旗を掲揚し沈没寸前に降下したとあるが、兄、勝はこの時には他の多くの兵士・船員達と救助され九死に一生を得ていたのである。この事実は、兄達も初めて知ることでした。

九死に一生を得た兄、勝はフィリピン・マニラで帰還する日を待ち、十月十日奉天丸（四千トン・大連汽船）に乗船する。この時の兄、勝はどの様な思いであったのか……。

奉天丸は台湾の高雄に向かうが、十月十八日戦爆機五十機の来襲直撃弾を受け大爆発して沈没、多数の兵員と船員八十三名(内、瑞穂丸船員四十一名)と共にフィリピン・ルソン島付近の深き海に眠ったままの詳細を知る。

商船の船員兄は　十五歳
冷たき海に　兵士と眠る

五十余年過ぎし後にて　兄の死の
知りたる事実　新ため祈る



沈没寸前に日の丸を掲げる「瑞穂丸」(絵画)

顕彰せねばなるまい
戦時徴用船員の業績を

新潟市　山口　春治

山口さん
昭和十九年タイ・バンコックにて

世紀の世界大戦、あの大東亜戦争開戦の昭和十六年十二月八日私は満州(当時)北端においてソ満国境警備の任に当たるハイラル飛行隊でそのことを知らされた。

青森県の航空教育隊を経てその部隊に転属させられて約半年後のことでした。開戦当初は大きな戦果を揚げながら戦線を有利に展開し、年明けて間もなく南方を支配していた大英帝国の要塞シンガポールの陥落を契機にその戦線を一挙に拡大していった。

そうした情勢の中で私は南方軍増強のため関東軍（満州全域）の各航空部隊から選抜された転属要員としての命を受けたのである。昭和十七年六月のことであった。

満州奉天省公主嶺に集結した約千二百名の前記転属要員はここで編成され大陸の玄関、大連港に向けて出発した。

大連港には南方向けの輸送船団に組込まれた沢山の輸送船が港内外に所狭しと終結し待機しており、私どもはその中の輸送船「うゑいるず丸」（当会資料によれば、川崎汽船所属六千五百八十六総トン昭和十九年五月二十四日敵の魚雷を受け南支那海サンジャック沖に於いて沈没、船員十三名を含む約一千名戦死す。）に乗船させられた。

乗船終了、編成完結したその船団は翌十一日早朝、ものものしい駆逐艦や船舶工兵隊などに護衛されながらいよいよ沖合から戦場に向けて出港した。

夏の東支那海は割合、波もおだやかでまだ制海権も我が方にあったといわれていたが、連日のように敵の魚雷による輸送船の被害が続出し、対潜監視哨の増強や退避訓練の強化などで緊張した日夜が続いた。

大連出港から一週目に輸送船の燃料や軍団の糧秣や飲料水などの補給のため、台湾の高雄港に寄港し、その日の夕刻再び海洋に出て南支那海を南下し続けた。相変わらず連日のように被弾による退避訓練が続いた。

当時の軍歌「暁に祈る」の一節に「ああ堂々の輸送船　さらば祖国よ栄あれ　遥かに拝む宮城の　空に誓ったこの決意」これは自らがその状況下で身をもって体験したものでなければその真髄を解し得るものではない。

予想もしなかった世界大戦となった。私は現役兵として入隊したばかりでこれから全く未知の戦場に向かうのである。とても生きて再び祖国の土を踏むこともあるまい。そんな思いをめぐらしながら水平線の彼方に消えゆく祖国の姿に悲しい別れを告げたのでした。

前途の不安が解消された訳でもなかったが、単純な日課の連続のなかで、毎日の食事受領や清掃・入浴場などでよく接触した船員（徴用令により徴用された軍属）の方々から、内地はいまや主食や日常物資の統制も一段と強化され、動員（在郷軍人の召集令状）も厳しくなったなどと、いろいろな内地の情報を聞かしてくれたものでした。

新聞もラジオも一切の情報メディアから隔離されて久しい私どもは郷里のことを思いながら身を乗り出して聞き入ったものでした。

勿論、あの船員達も当然ながら船内の隊員との接触は堅く禁じられていた模様であった。

日毎に南国の気配に変わってくる大海のそして果てしなく危険な海域を走り抜け、大連港を出港して二十五日目の八月三日、ようやくシンガポール（当時、昭南島と命名中）港に無事入港した。

戦後、抑留地からの帰国は復員船（航空母艦葛城）であったが、昭和十六年八月渡満の時も宇品から大連まであの

輸送船（船籍、船名は忘却）で送られた。

晩年、あの輸送船の船員達はあれから一層危険度の増した時代になりあの海域を走り続け最後はどうなったであろうか、などと考えるようになった。

しかし、あれから六十余年の歳月が流れ社会では、そろそろそんなことはもう忘れ去ろうとしていた平成十六年九月、私は地方新聞で本会主催の「戦時徴用船遭難の記録画展」の当地開催の記事を発見、感動したこの絵画展の会場でこの「顕彰会」の存在を知り、早速入会の手続きを取り今日に至ったのである。

願わくば遍くこの趣旨を広く促し、会員の増強を図りながら一層のご発展を心から祈念するものであります。

（山形県鶴岡市出身　八十六歳）

ご寄付・追悼式献花料

平成十七年十二月以降、次の方がたからご寄付並びに追悼式の献花料をいただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。

（敬称略・順不同）

寄付金

海事思想普及研究会（神戸市）小野寺巧一（横浜市）東　輝男（名古屋市）新藤博志（横浜市）山下琥生（東京都世田谷区）山下昌子（神戸市）鹿児島商船学校同窓会阪神支部（高砂市）河野龍志（西予市）江口和子（横浜市）東野明美（町田市）河合ハル子（横浜市）

献花料

川畑實恵（明石市）河方満智子（豊中市）安田八束（横浜市）伊藤慎介（東京都千代田区）長田キクヱ（鹿児島市）山田利政（松江市）全日本海員生活協同組合（横浜市）内藤福治郎（野田市）高等商船学校二期会（横浜市）金田光蔵（鹿児島市）山下義韶（神奈川県中郡二宮町）渡辺　光（小野田市）門田富雄（福岡市）鴨志田米造（松戸市）鍛冶本紀美代（神戸市）井上稔子（姫路市）福田陽子（雲仙市）熊谷末吉（仙台市）小林義隆（篠山市）入沢鉄郎（越谷市）竹内次郎（さいたま市）阪口勝子（草津市）加藤榮治（岐阜市）稲垣義夫（神戸市）長野ヨネ子（東京都中野区）若林久美子（北海道浦河郡浦河町）米山隆昭（東京都北区）高等商船学校三期会（東京都北区）ともづな会（東金市）西嶋　忍（大阪市）大和田吉雄（茨城県東茨城郡大洗町）河内フサエ（神戸市）財団法人全日本海員福祉センター（東京都港区）池原田鶴（横浜市）大熊庄五郎（春日部市）岡順二（津市）加辺覚一郎（草加市）加辺一夫（東京都江戸川区）小泉義男（日立市）佐野恵美子（横浜市）塩田顕一（東京都練馬区）高垣宏江（神戸市）高垣幸徳（神戸市）嶋田早苗（八幡市）鈴木富美子（横浜市）高野さよ子（静岡市）高橋弘江（藤沢市）武田晴美（大阪府茨木市）中村良秋（松戸市）西川克巳（神戸市）新田尚子（宇部市）根本靖子（瀬戸市）藤井靖子（広島県府中市）古川　昭（日立市）升田紀子（横浜市）丸木百合子（横浜市）三浦　功（東久留米市）三谷暁美（香川県仲多度郡琴平町）山本艶子（伊勢原市）和田耕作（柏市）家田富子（東海市）川村誠勝（北海道幌泉郡えりも町）鈴木富喜子（横浜市）近藤和恵（横須賀市）社団法人全日本船舶職員協会常務理事・猿渡　國雄（東京都千代田区）大木羲男（越谷市）浦賀警察署署長・出津信一（横須賀市）全国海運組合連合会会長・四宮　勲（東京都千代田区）浪速タンカー株式会社代表取締役社長・福岡孝一（東京都港区）相田和男（横浜市）社団法人日本中小型造船工業会会長・石渡　博（東京都港区）海防艦顕彰会連合会長・樫崎庸雄（東京都渋谷区）財団法人水交会会長・佐久間　一（東京都渋谷区）財団法人船員保険会会長・佐々木典夫（東京都渋谷区）財団法人偕行社会長・山本　卓眞（東京都千代田区）浅沼郁江（東京都練馬区）荒川　博（三鷹市）安藤久治（横須賀市）枝迫定一（横浜市）長田利美（川崎市）小松和夫（横浜市）五味和夫（東京都大田区）才津俊朗（横浜市）砂子賢馬（横浜市）明星英子（横浜市）竹端昭治（豊中市）都竹利年雄（東京都杉並区）長島　弘（横須賀市）山川澄男（横浜市）武馬竹光（一宮市）三宅　弘（逗子市）三輪史郎（千葉県印旛郡富里町）横尾英二（逗子市）吉野　明・塚田淳夫・川村喜一郎・樋口孝幸・曽根幸雄（横浜市他）渡辺政能（藤沢市）飯田喜久三（東京都渋谷区）貝谷アキ子（一宮市）中村誠（知多市）平野　彌（横須賀市）実穂海運有限会社社長・松本三七一（兵庫県飾磨郡家島町）全国海友婦人会会長・橋本則子（神戸市）鴨居三軒谷町内会会長・荻原美喜雄（横須賀市）隊友会横須賀支部副支部長・遠藤昭二（横須賀市）横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所所長・斎藤嘉則（横須賀市）横須賀海洋少年団父母の会（横須賀市）日本郵船郵和会（横浜市）南洋海運株式会社代表取締役・坂間聡（東京都世田谷区）本戸幸雄（横浜市）橋本進（藤沢市）柳野義見（横須賀市）横須賀海洋少年団団長・木下憲司（横須賀市）全日本海員組合職員ＯＢ会（横浜市）松浦郁郎（横浜市）宮川績（平塚市）山地静子（香川県仲多度郡琴平町）稲葉燁（小田原市）高等商船学校一期会・秋山好美（横浜市）五十嵐温彦（大和市）河合ハル子（横浜市）　北沢昌永

新加入会員ご紹介

当会は、基本財産の利息収入、日本海事財団の補助金、主要海運会社や関係団体等の賛助会費により運営されております。

しかし、平成十九年度には日本海事財団からの補助金は打ち切られ、また、利息の激減や海運会社合理化にともなう退会等により、厳しい運営を強いられております。そのような中で、ご遺族や関係者のご協力をいただき、慰霊、追悼、援護事業を支える協賛会員制度（年一口三千円）が設けられています。

平成十七年十二月以降、次の方がたが賛助会員・協賛会員に加入されました。ここに厚く御礼申し上げます。（敬称略・順不同）

◇**賛助会員**

竹村　治、松下トシエ

◇**協賛会員**

近藤和恵、田中ふみ、長屋恒久、藤本邦春、長町恵子、岩澤純造、萩原友次、磯田留作、中野昭男、堀　裕美、栗原貴美、鈴木正之、飯塚巳四喜、木崎雄二郎、吉田清子、小林　晃、光部とみ、宇佐美覚了、浅居時芳、遠藤作兵衛、西　元弘、浅川良男、秦　郁彦、原田武志、升谷恵美子、坂田茂樹、澤根美智子、島田淳子、鈴木さと、山本幸子、石垣武夫、中口雅文、猪股正昭、猪股貞雄

殉職船員遺族援護事業

保護者からのお便り

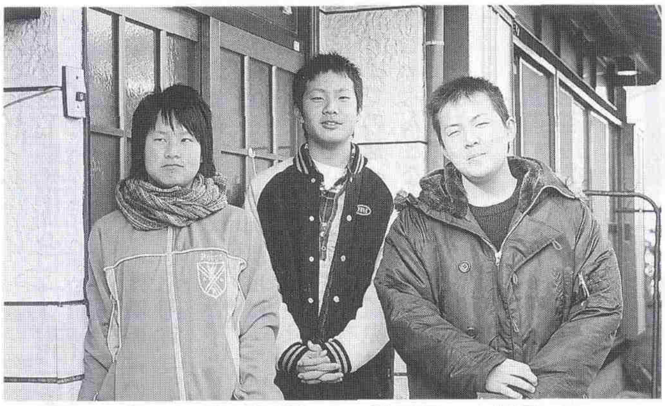
長崎県　井川　育子

平成二年から十八年三月まで長い間本当にありがとうございました。

主人を亡くした時に、お腹の中にいた二男も無事に中学を卒業し、春から高校生になります。

あの時は不安だらけの毎日でしたが、貴会を始め主人の会社やいろんな方がたのご支援に支えられ頑張ってこられました。長男大学三年、長女高校三年、親子四人まだまだこれからが大変だと思いますが、いままでどおりやっていこうと思っております。本当に長い間支えていただき感謝しております。

貴会の今後のご発展を心より祈っております。



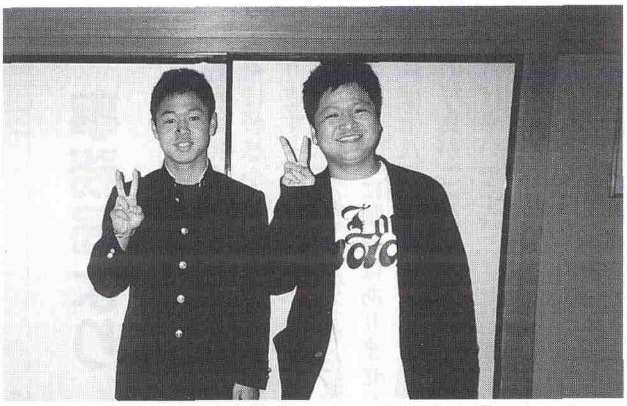
左から井川由貴さん、謙二君、大輔君

大分県　佐藤　祥子

無事に希望する高校へ進学することができました。これからがいろいろ大変ですが、親子で一緒に頑張っていきます。ありがとうございました。

長崎県　井上　千保

今年、高校に合格しました。今までありがとうございました。



左　佐藤憲一君、右　佐藤龍一君

大分県　佐藤　祥子

早いものでもうすぐ一年になりますね。次の文は、卒業式の日に、二人の子供が私にと書いてくれた手紙です。本当にうれしくて、涙が書いている今もあふれてきます。こんなやさしい子供達を残してくれて主人には感謝しています。

中学三年高校三年一番大事な時にお父さんが亡くなり、大変だったと思います。それぞれ、自分の夢に向かい二人共がんばっています。

憲一は先日大分県大会（バスケットボール）で二位になり、今度六月十六日には九州大会に行きます。進学校なので両立は大変ですが自分で選んだ道、きっとがんばってくれると思います。龍一は、宮崎でがんばっています。写真のとおりの子供達の笑顔で私も「がんばって生きな」と思い一日一日を大事にこれからもがんばっていきます。（もう一人長男二十一才がいます。）

ありがとうございました。

大好きなお母さんに

二男　佐藤　龍一

お母さんに手紙書くのは確か二回目やね。こういう風に改まって手紙書くのはやっぱり照れるばい。けど、今日は頑張って、いい機会なき僕の今の素直な気持ちを書くね。普段は恥ずかしくてなかなか言えんけど、お母さんとお父さんの二人には誰よりも一番感謝

しちょるばい。毎日、僕達のためにおいしいご飯を作ってくれて、いつでも僕達のことを考えてくれて思ってくれて、僕達がしたいことは必ず文句一つ言わずにやらせてくれて、本当に本当にありがとう。去年の七月にお父さんが亡くなって、今でも正直悲しいし、寂しいけど過去を後悔しても戻れんなき、お父さんのためにも家族四人＋トントンで仲良く元気に過ごそうね。お父さんは天国から僕達のことをいつも見守ってくれよるっち思うし、僕達を助けてくれるっち思うよ。お父さんの代わりにはなれんかもしれんけど、兄弟三人でお母さんをこれから支えていくなきね。僕は宮崎でひたすら勉強頑張って立派な看護師になって帰って来るなき。それまで楽しみにしててね。今までありがとう。そしてこれからもよろしくね。お母さんとお父さんの子供で本当に良かったばい。

感謝状　佐藤　祥子　殿

三男　佐藤　憲一

三年間ありがとうございました。おかげで、楽しい学校生活がおくれました。いろいろと迷惑をかけたけど、志望校に合格というプレゼントができて本当に良かったです。

これからも、迷惑をかけるけど自分なりに道を開いていきたいと思っているのでよろしくお願いします。

遺児援護給付制度

昭和五十九年一月、殉職船員の遺児に、義務教育終了まで援護金（月八千円）を支給とする内容を骨子とした制度が発足した。この制度は、一時期高校まで拡大されたが、現在は発足時の内容に戻っている。制度発足から今年三月までの延べ支給対象遺児は、千八百七十六人となっている。現在の支給対象遺児は二十二人。

遺児援護の対象者は、日本国民であって海上運送業に従事する船員で海難その他職務上の事故により死亡した者の子で、生活に困窮していると認められる者。災害の発生した日において主としてその収入により生計を維持していたものに限る（船員が死亡後に出生したその船員の子を含む）。となっております。対象船員が発生した場合には、当顕彰会までご連絡頂きますようお願い致します。

式辞を述べる相浦会長

役員・評議員の一部変更

五月二十二日の評議員会、及び二十三日の理事会において、当会の役員および評議員の一部が変更された。

【理事】

新任　黒田不二夫　（財）日本海技協会専務理事
　　　芦見　信孝　（社）日本パイロット協会会長
退任　久々宮　久
　　　荒銀　昌治

【評議員】

新任　古屋　隆行　（社）日本船長協会常務理事
退任　市川　博康

事務局より

ご投稿お待ちしております。

本紙は皆様からのご投稿をお待ちしております。内容は随想、感想、本紙を通じてのご遺族や関係者の交流など自由です。字数に制限はありませんが、できれば千八百字程度にとりまとめ、関連の写真がございましたら同封いただければ幸いです。

なお、投稿は当会で若干修正させていただく場合もございますので、あらかじめご了承ください。

編集後記

☆今号には絵画展・追悼式参加者の取材ご協力、殉職船員遺児家族の投稿も頂き感謝しております。☆六月二十三日沖縄全戦没者追悼式に内閣総理大臣が参列。顕彰会の追悼式にも参列いただければありがたい。☆サッカーW杯日本は敗退し中田選手が引退、四年後目指し頑張ってほしい。顕彰会も十九年度から補助金が廃止される。皆さまのご協力を頂き頑張りたい。☆今夏の気象予報はどうなるのか、健康管理には共に気をつけたい。五月十二日追悼式の予報は少し違って晴れ、有難い自然の恵みに今も感謝です。

（齋藤）